

ドラッグストア

食品販売額伸長続く

経済産業省商業動態調査によるドラッグストアの2022年1~12月商品販売額は、7兆7094億2100万円、前年比105.5%。調査が始まった14年以降6年連続で5%を超える伸長が続いていたが、21年は特需反動もあり伸長率が低下。22年は2年ぶりの5%超えとなった。食品(健康食品を除く)販売額は2兆3876億5300万円、同106.9%と回復。全体を上回る伸長率で、2兆円台後半も見えてきた。構成比は前年から0.4ポイント増え31.0%とこちらも3割超えが定着。業界をあげて注力している調剤薬品とともに「ワンストップショッピング」を形成し、市場のけん引役となっている。

業界首位のウエルシ

アHDの22年度上半期(22年8月期)売上高は5627億5200万円、前年比110.7%と2ケタ増。通期売上高は1兆円を超える見通しで、増収増益。このうち食品販売額は1249億2800万円、前期比109.1%。売上高に対する構成比は22.2%。2位のツルハHD、3位のマツキヨココカラ&カンパニーの通期予測もそれぞれ1兆円に迫る勢いで、この3社で約3兆円となる見通しだ。

一方食品売上高だけで見ると、1位はコスモス薬品で他社を圧倒。22年度上半期(22年11月期)の食品販売額は2340億5500万円、前年同期比109.3%。食品販売額2位のサンドラッグ、3位のウエルシアHDの合計2507億5300万円に匹敵する。商業動態調査による食品販売額2兆3876億5300万円のうち約1割を占め、同社の売上高に対する構成比は57.9%と6割近い。売上高全体に対する食品売上高構成比が最も高いのはGenky DrugStoresで、22年度上半期(22年12)の食品販売額は560億8300万円、前年同期比111.7%、構成比は66.9%と6割を超える。全般的には郊外型のロードサイド店舗を主力とするチェーンでは食品売上高比率が高く、都市型のインスタア型などの店舗を中心に展開する店舗では化粧品などの販売比率が高い傾向が見られる。(姉妹誌「酒類食品統計月報」3月号に関連記事を掲載)

(栗原聡)

大手ドラッグストアチェーンの食品販売額

日刊経済通信社調(単位:億円、%)

社名	2021年度通期			2021年度上半期			22年度上半期					
	決算期	食品販売額	構成比	前期比	中間決算	食品販売額	構成比	前期比	中間決算	食品販売額	構成比	前期比
コスモス薬品	22.05	4,371	57.9	104.0	21.11	2,141	57.7	-	22.11	2,341	57.9	109.3
サンドラッグ	22.03	2,343	36.1	104.2	21.09	1,179	36.1	103.2	22.09	1,258	37.1	106.8
ウエルシアHD	22.02	2,313	22.5	106.9	21.08	1,145	22.5	102.8	22.08	1,249	22.2	109.1
ツルハHD	22.05	2,203	24.1	103.5	21.11	1,111	24.0	105.9	22.11	1,178	24.3	106.1
※スギHD	22.02	1,387	23.0	103.1	21.08	709	22.5	101.9	22.08	739	22.2	-
クリエイトSDHD	22.05	1,364	38.9	104.2	21.11	678	39.0	104.8	22.11	735	39.2	108.5
※カワチ薬品	22.03	1,285	46.1	97.1	21.09	676	47.0	95.5	22.09	658	46.1	-
クスリのアオキHD	22.05	1,391	42.4	109.2	21.11	673	41.8	-	22.11	650	47.5	96.5
Genky DrugStores	22.06	1,025	66.3	110.1	21.12	502	65.8	-	22.12	561	66.9	111.7
※薬王堂HD	22.02	530	44.1	112.2	21.08	265	44.0	107.6	22.08	293	45.3	-
マツキヨココカラ&カンパニー(マツモトキヨシ)	22.03	515	9.5	95.8	21.09	260	9.5	94.5	22.09	260	9.4	100.2
サッドラHD	22.05	320	38.1	100.5	21.11	163	39.0	100.6	22.11	161	37.5	98.7
マツキヨココカラ&カンパニー(ココカラファイン)	22.03	156	8.6	41.8	21.09	184	10.1	92.1	22.09	154	8.2	83.7
小計		19,204	31.9	117.3		9,685	30.7	117.3		10,238	31.1	105.7
総販売額		22,338	30.6	102.3		10,915	30.6	99.2		11,496	31.0	105.3

注) 1. 総販売額は、経済産業省「商業動態統計」のドラッグストア(1~12月、上半期は1~6月)を参照 2. 年度は各社の決算年度 3. 部門別販売額を公表している企業のみ 4. 小計欄の構成比は掲載各社の食品販売額合計を同社の売上高合計で割って算出 5. サンドラッグはディスカウント事業を含む Dg.s 事業のみの販売額は304億4,900万円 スギHDはスギ薬局とジャパンを合算 6. マツモトキヨシHDとココカラファインは21年10月に経営統合しマツキヨココカラ&カンパニーとなったが、個別に開示 7. スギHD・カワチ薬品・薬王堂HDは「収益認識に関する会計基準」適用のため前期比を表示しない。



〇〇の場合は1を、〇〇の場合は2を…。当てはまる番号を押すと再び、〇〇の場合は1を、〇〇の場合は…。母を訪ねて三千里、ようやく目的に辿り着いたら、お客さまの携帯に〇〇時頃にお電話します…。ってETCカードの紐付けクレジットカードの件で問い合わせが必要となり、準備万端カード会社に電話したが、一瞬間の中がパニックに。電話をくれたオペレーターが親切丁寧だったのだ、その先はホッとしたが▼ネット対応も充実しているが、よくある質問の中に、したい質問がまったく見当たらない。途中で、もういいや状態に陥りそう。きつとこういう事例を逆手にとった悪質詐欺事件も既に起きていてのではないか：▼コロナを機に、外食で現金を敬遠する動きも。それが良くて行く客も多くなっている。だが、嬉しいことに自身が良く行く店は現金大歓迎。レジでスマホを出し、店員さんに操作していただくシニアもない。あゝ居心地良い!